

## 会 報

会費振込先 第一勧業銀行川崎支店東北大学ワンダーフォーゲルOB会  
普通口座 (370-1881604)

## 立山-剣岳OB山行

26期 伊田浩之

96年秋、南八ヶ岳縦走を終えた26期の8人は、蓼科高原の「小斎の湯」につかっていた。みんな結構な筋肉痛。露天風呂のある高台まで歩くのはつらかったが、疲れが温泉に溶けていくよう。色づき始めた木々の間から蓼科湖が望める。

「来年の山行はどこにしようか」と伊田が声を上げた。「体力がある間に剣岳に行こうぜ」と応えたのは森。「それも良いなあ」と相槌が出る。「蟹の横這い、縦這いってきついんじゃないの?」、「大丈夫、大丈夫。じゃあ来年は剣。決まりね」。森が、大きな目をくりっと見開いてきっぱり言う。いろいろ候補に上がるのだが、なぜか最後は森の一言で決まってしまう。不思議な存在感がある奴だ。かねてからの懸案だった「前後の代に声をかける」ことも一致。事務局の佐藤さんに頼み、会報に案内を載せていただいた。

日程は、「97年9月21日(土)、剣沢小屋に集合」という、恐るべきアバウトさである。だが、OB山行にはこれが一番というのが我が代の定説。休みの期間や体力はさまざまなので、細かく決めない方がいい。

関西組(いずれも26期)は、京都にいる平田の車に伊田と長谷川が同乗。富山側からアルペンルートに入ることにする。21日早朝、立山駅前に車を止める。朝一番のケーブルカーに乗ろうとする登山客があちらこちらにいる。さて我らも出発と、車に鍵を掛け、歩き始める。突然、サンダル履きの伊田が素っ頓狂な声を上げた。「あっ、登山靴忘れた」。即座に、長谷川が「信じられねえ」と蔑む。「車の中に決まってるだろ。家に忘れる奴がいるかよ」。恥ずかしさを隠そうと、伊田の声が大きくなった。

終点は、女人禁制の山に入った女僧が神の怒りにふれ、杉にされたとの伝説が残る「美女平」。バスに乗り換え、標高2450mの室堂へ。曇り空の彼方に目指す剣が見え始める。格好良い山容だ。深田久弥がこう讚えるのもうなづける。

「まことに剣岳は、そんな昔から、それを仰ぐ人々の心を高揚する山である。何よりその風采の豪毅にして颯爽たる点である。日本アルプスの高峰にはそれぞれの風格があるけれど、一つの尖端を頂点として胸の透くようなスッキリした金字塔を作っているのは、この剣岳と甲斐駒ヶ岳ぐらいであろう」(日本百名山より)

室堂で水をポリタンクに詰めていると、長谷川がこそこそ何かを買っている。聞けば、恥ずかしそうに「ポリがないので水筒を買った」と言う。

確かに売店には透明なプラスチックの容器が並んでいる。容量は1リットル程度か。黒ビニールの紐をはずせば、単なるペットボトルにしか見えない。押せばペコペコへこむ。それで、値段は700円。上には「日本最高位の名水をいれてってね」と、色とりどりのマジックで書かれた張り紙がある。「観光客だましだよなあ」と伊田は先ほどのお返しに出た。長谷川は「うるさい、うるさい」と、色白の顔を赤くする。「ウイスキーを捨て、その容器に水を入れようかとも考えたんだから」とも言う。まあ、そろそろからかうのも止めてやるか。ところが、バスターミナルの出口に向かう途中、ミネラルウォーターを売っているのを平田が目ざとく見つけた。値段は1リットルで300円。「こっちの方が良かったんじゃないの」。平田の口調は明るいけれどトゲだらけ。爆笑させてもらった。

立山三山の一つ、雄山(3003m)までは、コースタイム2時間20分。久しぶりの登りなので慎重に歩いたが、1時間20分で着いた。途中2回休んでいるのだから、ペースは上々だ。ガスが飛ぶと槍の穂も遠望でき、気持ちが良い。ただ気温は8度。さすがに風が冷たい。早々に出発。今日の最高峰・大汝山(3015m)を越え、別山へ。ここで伊田と平田は頂上を巻く道を。ガスの中、長谷川独りでピークを踏みに行った。道の合流点で長谷川を待つ間、日向ぼっこしゃれこむ。回りはガスなのに、日射しは強い不思議な天候だ。

分岐から剣山小屋まで、高度差300mを一気に下る。剣沢はガスにつつまれ、見通しがまったく利かないものの、雷鳥に出会えた。

### 紅葉のなか真っ直ぐな道下る

伊田が一年前から始めている下手な俳句をひねる。

と、ガスの中、岩に腰掛けていた男性がこちらをしげしげと見ている。「東北大ワンゲルの方ですか?」。なんと、8期の三日月道夫さんとのこと。事前に問い合わせはあったものの、参加確定のご連絡がなかったので、嬉しい驚きとなった。ああ、やっぱりユニフォームを着ていて良かった。「でも、色は緑だけど、我々の頃のユニフォームとは変わっていますよ」と三日月さん。それで、肩のワッペンを一生懸命見ていたという。いやあ、藪ですり切れたワッペンで申し訳ない。

三日月さんは、称名平(980 m)から奥大日岳(2605 m)を越えて来たとか。さすが、百名山踏破(OB会報21号に詳報)だけのことはあると、感心させられる。

小屋到着は午後1時半。信州側から入った関東組(26期)の北村と森と再会した。今日既に剣ピストンを済ませたと言う。「昨日は剣御前小屋で泊まり、天気が良いから行っちゃった」と余裕の表情だ。「最初は一服剣までのつもりだったけど、すぐそこにピークが見えたからね。そうすると、ピークだと思ったら前剣でさあ」。うーん、相変わらず軽い。

「蟹の縦這い、横這いどうだった?」、「へっちらら、へっちらら」と森。「でもこいつ、梯子でぶつけて、梯子に血をつけてやんの」と、北村が大げさにかからう。「なら、明日は森の血捜しだな」と笑いあった。

三日月さんと一緒に軽く酒盛り。やがて森川(26期)が到着。伊田と三日月さんが、テン場で設営中のOB会事務局・佐藤さん夫妻(8期)とお会いでき、今回の山行の参加者9人がそろった。3人とも気さくな方で、話は大いに盛り上がった。

翌日は曇り空。佐藤さんのテントまで全員で行き、見え隠れする剣を背景に記念撮影する。昨日のうちに、剣登頂を終えた2人は、みくりが池温泉へ真っ直ぐ向かうため、小屋でしばらくくつろぐという。伊田・平田・長谷川・森川の4人は、天気が最後まで持つことを願いつつ午前6時40分に小屋を出発した。佐藤さん夫妻は、テントを撤収してからの出発だったが、7時40分、一服剣(2618 m)で早くも追いつかれてしまった。健脚である。三日月さんは、天気が回復しないと決めて、真っ直ぐ室堂に降りたそうだ。

以後、行動をともにさせてもらう。前剣までは、いやらしいガレ場の急登。ところどころの鎖場もなんなく越える。前剣からは、縦這い・横這いも良く見える。長谷川の単眼鏡で見るとかなりの岩場。平蔵谷は9月というのにかなりの雪渓を残す。佐藤さんは現役時代、この谷を下ったと言うが、にわかには信じがたい急傾斜である。

#### ガス飛んで大雪渓のありにけり

連休だけあって、蟹の縦這いの下は、10分程度待ち時間があった。途中、ガイドを連れた老紳士を抜いた。聞けば、大正生まれと言う。高度感はあるものの、スタンス・ホールドともにながちりしている岩場を越える。三年の夏合宿でパーティーを組んだ森川も相変わらず堅実に岩場をこなしている。剣山頂(2998 m)には午前10時に到着。Lを食べ、のんびりするが、頂上にいる30分の間、一度もガスは晴れなかった。

下りの蟹の横這いは、最初の一步に度胸がいるものの、なんなく通過する。池の平、仙人池から黒部に向かう佐藤さんたちとは、一服剣下の分岐で別れた。ガスの中、単調な道をひたすら歩いて別山乗越へ。ところどころにコケモモが実る。すぐ口に入れる奴が誰かはあえて書かない。

雷鳥坂の急な下り(高度差400 m)は、コースタイム1時間20分を、33分で駆け下りた。下りは、まだまだ昔のスピードである。だが、現役時代+〇〇キロの体重では、登りがいけない。雷鳥平からみくりが池温泉までの登りは、足をひきずる感じになった。

清潔な造りのみくりが池温泉は地獄谷の湯をひく。少し白濁しており、いい湯加減だった。室堂のコインロッカーに預けてあった純米大吟醸の一升瓶は、森と北村が回収済み。宿の生ビールや追加料理を囲んでの、二晩続きの愉快的な宴会となった。

## 平成10年のOB山行

目的の山：雨飾山(1963 m) 越後の名山で、静かな山旅を期待

日 程：9月12日(土)、13日(日)、14日(平日)、15日(敬老の日)の連休

集 中：14日に雨飾山に登山、14日夜に小谷温泉の宿に宿泊

細部の問い合わせ：〒790 松山市萱町6-147-4 スプリングハイ101 伊田浩之

(Tel: 089-923-4473、電子メール: ida@ehime-np.co.jp)

## TUWV第7期 卒業30周年記念同期会に寄せて

7期 上田 俊朗

卒業30周年の同期会を、平成9年11月8日に、山形県上山温泉でひらくこととなりました。何名の人達に会えるか今から楽しみであります。平成元年には20周年の同期会を宮城蔵王山麓・遠刈田温泉で開きました。

(中 略)

「そんなにお前はなぜ嘆く。草のしとねに寝転んで……」

若い頃は“何とまあ、悠長な歌詞だな”と思っていましたが、今では“そんな風に時間を過ごしたいな”と感じられます。がむしゃらに行動できた時代も懐かしいですが、年齢に伴う心境の変化は恐ろしいものです。

さて、そんな“違いが判る男と女”になってくると、自分たちの楽しみ以外のものに眼を向けるのは当然と言えるでしょう。今の私達にとってTUWVは遠い過去であって、現実的なつながりは何一つありません。周年行事に参加して一夜を過ごして、“また次、5年後ネ”と別れるだけではちょっと足りないような気がします。私達が30年間持ち続けられたTUWVの思い出を現役の後輩達におすそ分けできないものでしょうか。今回の30周年の会合でそれについて話し合ってみたいと思っております。

(事務局の独り言：酒を飲み過ぎて何を話したか忘れてしまったのでは？ それより、山に来ませんか。現役ではないが、後輩が雨飾山で待っています。山がダメなら、小谷温泉だけでも)

## 思い出 ほろほろ

7期 真尾 征雄

早いもので卒業してから30年になる。鹿島建設に入社して25年間は、営業所も含めてだが建設現場に直接携わってきた。現場を担当していると、工事の工程と四季の変化とがミックスして、様々な行事が行われる。現場の近くに引越しをするので、その周辺の観光地に足を運び、美味しい名産品を食べることも出来た。品質・安全・工程を確保し、かつ金を稼ぐにはどうしたら良いか、あの手この手を考えてそれを試みるのは楽しいものである。そして、自分が造った物が姿を表してくるのを見るのは、土木屋冥利に尽きるというものである。

ここ5年間は支店管理部門に籍をおき、いわゆるサラリーマン生活をしている。けっして今の仕事が嫌だとか、変わりたいというのではない。それなりに面白く、自分を生かせる仕事だと思っている。ただ、生活に以前のような変化がなく、そのくせ一日が、一月が、一年が瞬く間に過ぎていく。お客さんとの打ち合わせ、社内の会議、社内の人達との会食、会社仲間とのゴルフ。気になれば休日にも出勤する、どっぷり首まで漬かった会社人間になってしまった。

最近、記憶に残る度合いが落ちてきた。昨日の宴会の出席者や話の内容や料理等が？。これはボケの始まりだろうか。ところが2年程前に中国に行ってきた時のことは鮮明に覚えているのである。重慶で食べた四川料理も、長江を船で下った時に見た三峡の景色も、夜行列車の中で三峡ダムの是非を夜遅くまで論じたことも。記憶に残る度合いとは、その時如何に一生懸命見たり、聞いたり、話したり、食べたりしたかによるのではないだろうか。

女峰山麓での満天の星空、甲武信岳の麓の唐松の紅葉、平ヶ岳の空を焦がす夕焼け、船形山の新緑のブナ林、トムラウシのお花畑と鳴き兎。今でも鮮明に記憶に残っているのは、一生懸命に見ていたからではないだろうか。

10年前に蔵王のペンションでやった20周年目の同期会のことを、よく覚えている。仙台駅で会った時は一瞬誰だっけと思ったのに、各々の挨拶を聞くうちに、学生時代にタイムスリップしたようで、時の経つのも忘れてしまった。こんど30周年の同期会が開かれる。卒業以来初めて会う人も来るかもしれない会社人間から開放されて、一生懸命見たり、聞いたり、話したり、食べたりしてこよう。新しい思い出を残すために。

(またまた事務局の独り言：この秋、18年離れている26期の方々と剣に登った。これだけ離れていてもワングルの臭いは変わらない。なぜか昔から知っているような気になってしまう。同期だけでなく、みんなと会いましょう。「雨飾山」、26期の方が誘わなければ、多分私は一生登ることはなかったでしょう)

## ●故生駒勉君を悼む

平成9年12月1日 後藤龍男（39年卒）

10月はじめ、出張先のブリュッセルから帰宅直後、家内から「大変なことが起きた。生駒さんが亡くなった」と告げられた。前日の告別式には松木、岡、小俣と連れだって家内が出てくれたという。単身赴任先での突然の不幸だったので、仲間にもなかなかうまく連絡が付かなかっただけで、気だけは万年青年みたいなつもりでいても、年とれば誰かいつかはと思っただけで、こんなに早くその時期が来るとは思いつかず、言葉もなかった。

ちょうど60年安保の年に大学に入った。騒然とした雰囲気のカンパスで、生駒やほかの仲間達と出会った。以来40年近くが過ぎたことになる。連日のストライキで休講続きなのをいいことに、川内の部室に入り浸り、山に出かけた。生駒は現役入学で物理的な年齢は仲間のうち一番若かったが、当時から妙に分別くさく大人びたところがあった。彼の世知に長けた言動は、ちょうど大人の入り口にさしかかった年代には魅力的で、仲間内で一目置かれる雰囲気があった。入部して初めて、合宿で二口峠に行ったとき、それまで山の経験など一度もなかった生駒はひどい靴擦れをおこした。それでも青い顔をしながら、痛いともいわずがに股で歩き通した。経験者なら誰でも知っているが、痛くないわけがない。悲壮なやせ我慢なのだが、痛いなどと口が曲がっても言わないのが“生駒式美学”であった。

3年生の秋、学期末試験の後、松木と3人で鳥海山に登ったことがある。下山中、紅葉があまりに見事だったので、私がたびたび感嘆を口にすると、「お前はまったくどうしようもない感激性だな」と馬鹿にして取り合わない。そのくせ酒田の駅前旅館で、枕を並べて寝付くまで、見かけによらずナイーブな人生論を、眠くなるまで仕掛けてきたのは彼の方だったことを今でもよく覚えている。

仲間が新婚旅行から帰った直後、その新居に押し掛け、一晩徹夜麻雀をするという馬鹿なルールがあった。大抵は新婚早々の奥さんを困らせないよう事前通告したが、彼は意図的にそれをせず、我々悪童仲間をいきなり予告も無しに新居に連れ込んだ。翌朝、朝食の用意を言いつけられて、何の準備もなく困り果てている奥さんに、「あり合わせでいいぞ」などと偉そうに亭主風を吹かせてみせる。この生駒式美学に対し、奥さんから「私、魔法使いじゃありませんから」とスマートに逆襲されていたのを覚えている。

仲間が北八ヶ岳に伝蔵荘を作ったのは、皆子供が産まれたばかりの安月給の頃だった。安普請のため、ベランダは手すりだけで、下の横木をつけられなかった。よちよち歩きの子供が落ちないかと心配すると、生駒は「ここから落ちて死ぬような子は、どうせいつか何処かで死ぬ。心配しても始まらない」と言う。結局横木無しのまま30年たったが、事故にあった子供は一人もいない。親馬鹿をクールに突き放した彼自身も、一流の達観からくる不養生なところが多分にあった。昔からあまり体を大事にする方ではなかった。その彼が、仲間内で一番酒に弱いくせに、仕事柄単身赴任先では飲めぬ酒を飲んで頑張ったのだろう。おそらく彼のことだから、少しくらい体調が悪くても、人間ドックなど馬鹿にして近寄らず、いたわらなかつたのだろう。

昭和30年代の古き良き仙台の街、二口峠や東北の山々、川内の米軍兵舎跡のきたないTUWVの部室、幾たびかの山行、伝蔵荘、その他諸々の懐かしい記憶につながる数少ない友を一人失った。 合掌。

## 禄弥先生 無事退院

10月、元部長をされていた鈴木禄弥先生ご夫妻は、講演のため中国に招待されました。その折り、三峡を訪れましたが、旅先で体調を崩されました。応急処置をしてどうにか講演は乗り切ったものの、11月初め、帰国してすぐ横浜の長津田厚生総合病院で手術をしました。その後順調に回復され、11月下旬無事退院されました。退院おめでとうございます。ご健康に一層留意され、いつまでもご活躍下さい。

さて、今回はOBの皆々様に悲しいお知らせをしなければなりません。  
我々の同期（昭和39年卒）・生駒 勉君56才の訃報です。彼のあまりにも突然な御逝去の報に接し、我々も言葉がありませんでした。  
働き盛りの企業戦士の壮絶な戦死であったのかも知れません。

優しい奥様と美しい二人のお嬢様、それに多数の人々に見守られながら、美しい沢山の花にかこまれて、「かの国」へ旅立ってしまいました。  
彼のご冥福をお祈り申し上げます。 合 掌

教会で牧師様の言葉を聞きながら、遥か昔の仙台時代のこと、テントの中でのこと、合宿やコンパでのこと等々を思い出しておりました。

さて、ここで提案なのですが、我々OB本人の場合、「東北大学ワンダフオーゲル部OB会」として「弔電」と「生花」を用意してはいかがでしょうか。生駒君の葬儀に参列しながら、ふと考えました。

39年卒 岡 好 宗

◎事務局長の  
提案

- 1) 本人の場合、OB会として「弔電」と「生花」を用意
- 2) 配偶者の場合、「弔電」を用意
- 3) 1)、2)とも同期の人が相談の上対応  
(事務局では対応が間に合わない)
- 4) 費用は後日事務局に請求する。

以上でいかがでしょうか？ 特に異論がなければ  
ご意見は事務局へ。 実施させていただきます。  
Eメール: sato.02413@apr.jgc.co.jp

年のせいか体がさぼるようになってきました。

今年こそ山行を再開しようと張り切っていたのに、  
仕事が変わったり、町内会の役員だとかで  
結局ほとんど活動できませんでした。

スキーが2回と八ヶ岳の麓のプレハブ山荘に荷物を運搬したついでに  
時間をかけて山を眺めてきたくらいです。

仙台へ教授の最終講義を聴きに行くついでに滑ってきました。  
蔵王の南、戸川幸夫が新聞記者をしていた時、マタギの里として紹介した  
七ヶ宿にスキー場があるというので行ってみました。  
あの、懐かしい番城山の南側、山形の赤湯温泉(?)に抜ける街道を  
はさんだ向かい側の低い山の北斜面がゲレンデでした。  
上の方の急斜面の雪は既に消え、べたべたの重たい雪でしたが  
下手なりに楽しむことが出来ました。  
遠くに南蔵王から番城への山並みが白く輝いていました。

帰りに部室によってみました。相変わらずに汚さでしたが、  
その部室も新しい建物に移ったとか。

夏の終わりに、八ヶ岳の奥蓼科温泉入口の村のプレハブ住宅に  
家財道具の運搬で行ってきました。

夕方は村のはずれの公園のんびりと天狗岳を大きな紙にスケッチして、  
夜は白樺湖の方までそばを食いに行き、翌日は奥蓼科の温泉で...  
帰りは近所からもらった野菜をいっぱい積んで戻りました。

9月はお誘いを受けたのですがちょうど出張と重なり、  
参加できませんでした。少しはトレーニングをしておかなければと  
暑いさなか、週末に軽く走り込んでいたので残念です。

来年こそ、もう少し動きたいものです。  
一人だとなかなか最初の一步が踏み出せないなので、相棒を捜すことにします。

昭40年卒 小原佑一

昨年10月からリストアップで希望退職して  
自由の身になってきましたが、今年7月に新しい  
仕事についてます。やはり仕事をしていた  
方がいいと悟った一年でした。横山雄一郎(41年卒)

皆さんお元気ですか。  
ジョボールの橋の終り  
今度シンガポールへ旅行  
する。こちらに来る時は  
連絡下さい。

京野 (8期 44年卒)

TEL: 65-235-2434

今年のOB会で、TUWVのOB会もインターネットでホームページを持っては、...。とのお話がありました。

最近、TUWV、OBの西川君が、彼の個人で開設しているホームページのサブディレクトリにTUWVのローカルな集まりの写真を掲載しました。

彼とはOB会のホームページの件を、以前(OB会の直後、今年の2月ころ)話しましたが、そのままアクションをとらず終わっていました。

彼は、個人のホームページも持っているし、TUWVのホームページ開設には一肌ぬいでくれそうです。但し、お金なからむので、勝手なことはできません。

そんな訳で、今回、御連絡することとなりました。

西川君によると、サーバの借用が2~3万円、通信費用として年間1万円くらいかかるみたいです。

先日、ホームページの管理をやってる小さな会社と接点があり、話を聞きました。その会社は、年商5億円程度、EWSやPCのハード、ソフトを扱っています。シリコンバレーにもオフィスがあり、結構しっかりとした会社です。本社は川崎(新百合丘)です。私も個人的に約5年以上つきあがあります。

ホームページの管理を全面的にまかせて、5,000円/月で年間6万円。「結構高いね!!」と話したら、「まあ、半額くらいにはなるかな...?」とのことです。(こういった価格設定なのか、やや疑問ですが...)

詳細は、私あてにfaxで条件等を連絡してくれる様です。西川さんの趣味の延長でやるのも良いですが、TUWVのOB会となると、それなりの責任もあるし、楽しさと苦しさ同居して、...。外部のプロにまかせるのも一つの案だと思います。

私自身、ホームページは作った経験がなく、写真からの画像の取り込み等本格的にやるのなら、面倒かなと思ったりします。

外部の業者にまかせるのは、いかがでしょうか? コメントお待ちしております。年間6万円は高いかな? 3万円くらいならOK?

ひとまず西川さんのサブディレクトリのホームページで走りだし、OBの反響があればプロにまかせるとか、...。色々と作戦考えられますが、...。どうでしょうか?

→ 新年会で相談しよう(事務局)

+++++  
マイクロ波管(事)基礎開発部 利根川 敏 (58年卒)  
tel: 0427-71-2777 (職場) 044-788-7728 (自宅)  
fax: 0427-71-4283 (職場)  
E-mail: GWT00287@biglobe.ne.jp  
+++++

ご意見は事務局まで  
sato.02413@apr.jgc.co.jp

毎年OB会新年会に本を持って行って売りつけ、ヒンシュクをかっているのは私です。今年は翻訳じゃなくて、女房で『男たらし論』という恐ろしい本を書いてしまいました。12月10日に平凡社から発売です。子どもへの教育投資もそろそろ終わり、これからまた遊ぶぞ!と意気は盛んですが、パソコン前に坐っている毎日で体加減之が心配される今日この頃です。」 48年卒 藤田真利子

いかがお過ごしでしょうか。近況報告です。昨年(平成)3月に、29期の安宅氏と30期の水戸瀬君の3人で、火打山スキーに行つて以来、殆まり山行はしていません。仕事。都合上、夏にはあまり山に行けず、秋になつてから日帰り近頃の山に行つています。同期の皆と違い、いまだに独身で身軽なので、当分の間、気楽に山登りを続けるつもりです。

佐藤 雅俊 (30期)

5年程前より1年先輩の水戸兄に誘われて中年の山登りを再開し、4年前に勤続\*年の特別休暇をもらって20数年ぶりにネパールをトレッキングしてきました。ヒマラヤの山、山里の淳朴さはやはり素晴らしかったのですが、カトマンズの排ガスには大変残念な思いをしました。昔はリキシャとって、人力でしたが、今は懐かしいミゼットタイプの小型車の氾濫。一步山に入れば山道しかないのですが。又行きたいな!なんて思いながら、最近では年2、3度の山行を楽しんでいます。今年は残雪豊富な春の飯豊、山小屋も綺麗になりましたね。夏は唐松から白馬、朝日を目指したのですが、天気悪く、途中鍾温泉から下山。秋は中央アルプスの駒ヶ岳から空本岳縦走、10月10日というのに初雪にあいました。普段の運動不足がたたり、膝を引きずり下山。当分静養です。普段は仕事の合間に10坪程度の農園で野菜を作っています。完全無農薬、生ごみ有機肥料。今はキャベツ、ブロッコリーの収穫を楽しんでいます。

S 45年卒 石野



東北大学祭 (10/31~11/3) に行ったついでに、新しい部室を覗いてきました。7月の新サークル棟への移転にともない、引っ越したもので、以前のサークル棟A棟があった場所は自転車置き場となっていました。

新サークル棟の場所は生協の裏側。鉄筋コンクリート4階建てで、中庭のある造りとなっています。入居しているサークル数はなんと90。当局といろいろ交渉があったようですが、結局、24時間使用可能となったようです。

ワングルの部室があるのは2階。大きさは以前よりやや広いぐらいですが、正方形に近くなった分だけ、使いやすそうでした。部員がだれもいなかったの、詳細は不明ですが、部室内にザイル等が掛けられているところを見ると、倉庫は取れなかったのかもしれない。

光りが良くはいるので明るい雰囲気。片方の壁には、山溪などの雑誌や資料がずらり。張り紙で連絡を取り合うのは、以前と同じらしく、冬山関係の張り紙が目立ちました。また、クライム練習用のボードを作りたいらしく、カンパを募る張り紙もありました。

「相変わらず汚い部室で安心した。早く報告を出してくれ」という、最近卒業したらしい人の張り紙もあったので、相変わらず報告編集も遅れているのでしようね。

部員と話せたら、もっといろいろとご紹介出来たかもしれませんが、取りあえず、新部室のご報告まで。

追伸) 仙台にいる3日間、白頭山に通いました。おばちゃんは、この春も風邪をこじらせて寝込んだらしいですが、会ったときは元気。「あつ、あつ、あつ」という笑い方も健在でした。ホワイトトリカーの梅割の味も相変わらずです。  
(-)

伊田浩之 tel.089-923-4473 26期  
mailto:ida@chime-np.co.jp

## 『山うなぎの会』(第4期同期会)発足

97年8/16,17 卒業3年目の我々は、なかなか実現しなかつた同期山行を行いました。場所は中央アルプス。それはロープウェイがあるから、ではなく、同期の福与君が春から木曾駒頂上山荘で手伝いをしながら高山植物の研究を行っていたので、そこにみんなで集まろうというのが、きっかけでした。

我々の代は入部当初から男12人で、卒業以来2年半ぶりに、北は仙台、西は鳥取、山口から1人の海外出張の者を除いて、11人が集まりました。

計画はロープウェイを上り下り共用というものでした。しかし、中アまで行って、それだけではもたないという仙台の4人は西横川の沢登りをしました。仙台組が頂上山荘へ着いた時にはもう皆出来上がったのを通り過ぎ、テントで寝ており、やはりつまみもほとんど心やられていました。

夜もかなり盛り、福与君が我々のために500mlビールを20本くらい運んでくれたのには涙が出ました。

同期会の名前も「山うなぎの会」と一見まともなものに決まりました。一夜明けた後、1年後の山での再会を約束して、空木岳への総徒走、ロープウェイ駅へと別れました。

家に帰ってから、数日後の朝、いつものよたトイで朝日新聞を広げると、一面に大きくカラー写真で福与君の研究が紹介されているのには驚きました。/ 第34期都築

今年も台風は2回会い、77キに会い、冬の雨に会い、それでもいつも1日はよい天気になる不思議な年でした。

正月：ハヤ岳(イウ、天狗)  
3月：安達太良(山スキー)  
5月：立山(山スキー)  
6月：安達太良(台風)  
8月：白馬大池→白馬(台風)  
大雪キ通行止め  
コース変更  
9月：白馬山行  
立山→剣ヶ池→平→黒部  
念願の裏剣  
連日雨、千歳日(池平)  
も1日ガス、but 黒部  
に下る日の朝快晴、  
翌日また雨

3人用テント  
に2人で  
ラフク。  
剣ヶ池では  
三日間か  
白った。  
8期(44年卒)  
佐藤拓哉・良子

11月：燕岳(テントから顔を出してゴ来光!)  
12月：ハヤ岳(赤岳)  
雪少ない、夜に雨!  
正月：南ア(葉師、観音)を予定

11月8日9日上山温泉で同期会を開きました。卒業25年記念ということ、23名中16名の参加、紅一点の片岡さんも出席、大盛況でした。斉藤茂吉ゆかりの純和風旅館を貸切、温泉と手作りの料理を堪能、卒業以来はじめての顔ぶれの人もあり深夜まで語り合いました。翌日は上山城見学、山寺まで足を伸ばし、あと5年後の再会を楽しみ分かれました。さて、私はというと山には全然縁がなくなり、仕事仕事に追われています。流通環境が激変している中、会社の舵とりそして業容の変革に取り組んでいる毎日です。家内が音楽が好きなので、今年の4月自宅兼音楽ホールを建てました。音響もそれなりに工夫、個人のホールとしては東北ではあまりない、ユニークなものです。月一回のペースで演奏会を開いています。

7期 大山幸則

大学卒業してもう20年を過ぎ、山に行きたいという気持ちがあるものなかなかになっていました。去年は夏に雲の平から双六へ行き、新穂高温泉においたのですが、お盆という一番混む時期に山小屋に泊まることになってしまい、空気の悪さに悪戦苦闘しました。今年も取寄"かしから行者小屋にお泊りしました。でも、山に行くための学生のお歩いた東北の山々の豊かさを改めて感じさせられます。

私は今、留学生に日本語を教える仕事をしています。授業の準備に追われ、この言葉とこの課の意味は(どう違)いか、どうしてこう言うのか、などとい学生の質問にたいしたじこなる毎日ですか、逆に学生から教わることも多く驚きと発見の連続です。そんなこんなで毎日過ごしております。

耕二はもう丸山に行きたいと思ってるのか、  
50年卒 山口みどり 1997.12.10 草

高校の教員になって13年目です。昨年まで主顧問をやっていた先生が転勤になったので今年度からワンダーリーグ部の主顧問になりました。

山は年に数回、高校生をつれて行っています。今年の夏合宿(総高)で7人パターンのEssenに変化をつけようと、「イカ天」を伝授しました。なかなか好評で、ころもなつかしい味を楽しみました。

機会があれば自分の山もまた登ってみたいと思います。これからはまたよくお願いします。 松林隆幸

追記 10月に引越しました。新住所は 春日井市高森台2-16-16 (0568)92-7508 です。

近況報告

昨年10月に日高山脈の茅室岳へ登った時の写真です。大まかにこのように登っております。  
金婚式を迎え、子供達が就職や大学に入って家を離れ、又二人だけの生活となり時の過ぎるのは早いのだと感じています。仕事はプリント製品の製造販売ですが、公共予算の削減やセネコンの信用不安等、環境は大変厳しくなってきました。  
二人でゴルフをしたり、旅行をしたりして年々とこの山を捨てる気になりに気をつけております。

名前 上田 俊朝 自宅電話 (011)562-2082

近況報告

休みの日久しぶりで山に(ときどきハイキング程度です)行ってきました。天気もよく気分もすっきりして、登山にいいですね。紅葉は少し早く色づき始めました。→道筋不明と異なるといって、通称(山崎)の余のうす20分は山坂の道を歩いていると、疲れても帰って来られぬ。私も少しづつと。  
紅葉の季節、松尾の研究所で電子制御の研究とパソコンもやっています。週1回、近くへ明治大学で非同期講師として、講師 結構気晴らしにできています。  
家族は、妻と1歳1男の4人です。子供は2人とも受験生で、1人前にはなっていて、親に気を使っています。

名前 大下 晋正 自宅電話 0427-53-8301

我が家の近況を妻が保育園の新聞に投稿した文章でお知らせします。(手抜きかな?)

『今年の夏休みは、いよいよテントを購入し、父の念願だった"テントでキャンプ"を実行しました。まあ、「学童」を見習って、ブシキャンプ....。といっても、寢室にテントを張って、その中に寝袋で寝てみよう...。というブシキャンプですが....。この暑いのに....。でも、お父さんと子供達はよく寝ていました。(私はその場で、布団で寝ました。)

そして8月、毎年のように訪れている福島県の蘆磐梯へ行き、キャンプです。昼間は、川で魚釣りをしたい、夜はホタルを追いかけたい、...。と楽しいひとときを過ごしてきました。夜中にもものすごいカミナリと雨が降りましたが、子供たちはあでにくっついて、お父さんはケラケラと笑って楽しみ、私は一人で恐ろしい思いをしていました。たった一泊だけのテント生活でしたが、毎年少しずつ日数を増やして楽しみたいと思います。

(でも私は、やっぱりトンガが一番!!!)  
昭和57年卒 坂本 務









らいちの平  
より  
立山三山

5.3.97

夕方、紅く染まる立山を目の前にし、言葉なし。  
一、越にスキーをテポし、雄山へ。連日夜は雨が降、たか、昼は不思議と晴れた。



燕岳

11.3.97

去年の冬、水彩絵具でスケッチをしていたら、筆先がカサカサ音のする、初め何なのかわからなかった。凍っていたのである。ちよと考えると当たり前。  
以来、冬は小さなスケッチブックにペンでガマンしている。 8期 佐藤

## 新年会のお知らせ

新年会は毎年1月の最終金曜日にいつもの所で行っています。

平成10年1月30日(金) 18:30

新橋駅のすぐ近くにある新橋亭(しんきょうてい)

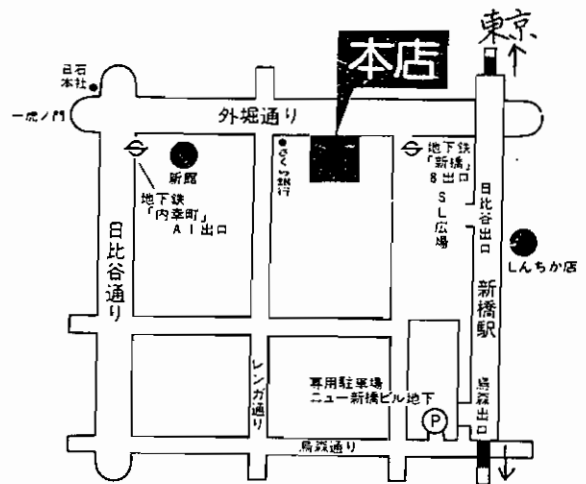
会費は10,000円の予定

皆さんお誘いの上ご出席下さい。特に若い人の出席は大歓迎です。遠くの方でも、東京に出張などで来るような場合には、ぜひ出席して下さい。飛び込み大歓迎です。反対に、出席ということになっているのに、当日欠席される方も結構います。これは本当に幹事泣かせです。予定が変わった時は、早めにご連絡下さい。

問い合わせ、連絡先 佐藤拓哉 Tel 0468-41-8622

### 平成9年新年会出席者

(S39) 小俣勝男、岡好宗、後藤龍男、佐藤敦、  
 松木功 (S40) 小原佑一、島崎賢、白井洋行、  
 緑川学、八木正昭 (S41) 相沢宏保、桜洋一郎、  
 佐藤豊治、渋谷尚武、瀬尾勝之、藤田凱巳、横山雄一郎  
 (S42) 加藤邦明 (S43) 五十嵐惇和、大木芳正  
 金子清敏、藤森英和、村山貞一、上田俊郎&お嬢さん  
 (S44) 佐藤拓哉、濱聡、三日月道夫  
 (S45) 富川正夫、今井和子 (S46) 甲斐利春、  
 田中康則 (S47) 秋田修 (S48) 藤田真利子、  
 神山文範 (S55) 石川重年 (S58) 利根川敏  
 以上37名



ご予約・お問合せは

☎ (03)3580-7811

今回は出席予定の連絡を受けていた方で、何の連絡もなしに欠席した方が10人いました。これだけは『カンペン』して下さい。

### 平成8年1月~12月会計報告(東京口座)

収 入	
繰越金	483,893
OB会費	46,000
利 息	417
計	530,310

支 出	
会報N027	44,463
近況報告等	6,737
事務通信費	8,800
次年度繰越	470,310
計	530,310

### ★★ 編集後記 ★★

◇会報28号をお届けします。毎年どこかで同期会が開かれているようですが、事務局にはなかなか情報が入ってきません。同期会の様子をぜひOB会報に載せたいと思います。同期会の幹事の仕事のひとつとして、「同期会の様子を事務局に知らせる」ということを追加して下さい。もちろん、誰かを指名していただいても結構です。

◇近況報告を何人かの方をお願いしていますが、近況を送って下さるのは、いつも1/3程度です。「忘れる前にポストへ」よろしく願います。今回は、第7期の同期会関係の手紙や出欠の連絡票を金子さんからいただいて載せました。

◇年会費は1000円です。1ページ目の口座に振り振り込んで下さい。数年前の新年会から集めるのを止めました。

皆さん、ご協力お願いいたします。